

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ながの獅子舞フェスティバル
事業主体 (連絡先)	長野市 (文化スポーツ振興部文化芸術課 224-7504)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,939,325 円 / (支援金 : 2,855,000 円)

事業内容

後継者不足に悩む中、地域の伝統芸能をイベントとして開催することで、子どもたちや若者の参加を促進し、伝統芸能の継承を進める。

- 日時：平成30年5月3日 午前10時～午後4時
- 会場：善光寺表参道（中央通り）  
長野駅善光寺口駅前広場
- 内容：市内の神楽獅子舞団体の披露 73団体  
神楽屋台の展示、獅子舞体験会  
写真コンテスト  
善光寺花回廊会場との連携
- 交流会（対象外事業）3月13日（火）  
事例発表、意見交換

【目標・ねらい】

- ①次世代への伝統芸能の継承
- ②世代や地域を超えた交流
- ③にぎわいづくりによる交流人口の増加

事業効果

- ◆出演団体 73 団体, 約 1,100 名
- ◆観客 6 万人
- ◆出演者アンケート
  - 総合的に満足・やや満足 89.5%
  - 次回も参加したい 96.5%
  - 主な意見
    - ・会員の目標と伝統芸能の継承につながる
    - ・子どもたちの自信になった
    - ・他の獅子舞を見て楽しかった。勉強になった。

今後の取り組み

初回を超える73団体と多くの団体に参加をいただき、期待の表れを感じる。また、参加団体から新たなアイデアやボランティアとしての参画もあり、参加するだけでなく、自ら企画・運営する体制づくりを進めたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



※自己評価【A】

【理由】

初回を超える参加があった。また参加団体からのアイデア提供など、市民の気運の高まりが見られることから、今後の発展に期待が持てる。

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州須坂町並みの歴史的価値の再認識と保存活用啓発事業
事業主体 (連絡先)	須坂市 須坂市大字須坂 1528 番地 1
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	716,331 円 (うち支援金: 550,000 円)

#### 事業内容

須坂地区では、蔵造りの商家や民家が多く建てられ、それら建物は現在も蔵造りの町並みが残っているが、生活環境の変化等により取壊しが進んでいる現状がある。市内外の地域住民に、町並みの魅力をあらためて認識してもらうため、フォーラムを実施。

- ・2018年7月14日
  - 午前 町並み探索 30名参加
  - 午後 シンポジウム 71名参加  
(基調講演・パネルディスカッション)



【建物所有者から話を聞く様子】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①市内に住んでいる方でも須坂地区に製糸業関連の建物がまだ残っていることを知らない方や建物内部に入ることがない方が多かったため、保存に対する意識向上を図ることができた。また、町並み探索やシンポジウムを通して、町並みへの理解度・まちづくりへの関心について多くの参加者が高くなった。
- ②訪問先のお宅には記録集を配布し、素晴らしいものを作ってくくださったと喜ばれ、遠方に離れている家族にも送付をしようと言ってくれる所有者もいらした。
- ③事業実績報告時期では該当数値が判明していないため、事業効果が明確にすることは困難だが、市内外の方が訪れるきっかけとなったと考える。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

町並み探索は案内に独自性があったためか、定員が埋まったことにより参加をお断りすることもあり、多くの方の関心があることがわかった。地域住民の方々のご協力をいただきながら、今後は行政主体のイベントではなく、行政はサポートに回り、住民団体による町並み探索となるようにしていきたい。

#### 【目標・ねらい】

- ①参加者の町並みに関する理解度及び関心度の向上
- ②建物所有者の保存に対する意識向上
- ③観光客の増加

#### ※自己評価【B】

##### 【理由】

参加者には町並みへの理解を深めてもらえたが、次の町並みやまちづくりを担う若年層にも興味を持ってもらえるような工夫が必要である。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号) (第3の8関係)

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域で学び語り継ぐ堀直虎侯の生涯
事業主体 (連絡先)	須坂市 社会共創部 生涯学習スポーツ課 (博物館) 026-245-0407
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	645,600 円 (うち支援金: 516,000 円)

#### 事業内容

- 1 創作音楽・紙芝居の上演  
市民が堀直虎の生涯を題材にした紙芝居・創作音楽を観光イベント等にあわせて上演。
- 2 歴史文化講演会の開催  
人気のラジオパーソナリティを講師に招き堀直虎を題材にしたラジオドラマの制作話等の講演会開催。
- 3 明治150年・堀直虎没後150周年記念展示の開催  
全国的に幕末・明治維新に注目が集まる年であり、幕末・明治期の須坂に関する史資料を展示。
- 4 歴史文化ボランティア人材の育成  
事業の実施・運営において、ボランティアスタッフが主体的に関わり行う。



【邦楽コンサートの様子】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 創作音楽や紙芝居の上演を観光イベント等で市民が多く集まる機会に行ったことで、歴史に関心のない人達にもその生涯や業績について知ってもらうことができた。
- ② 講演会により、地域に誇りと愛着をもつきっかけとすることができた。
- ③ 事業の運営だけでなく、展示会開催にあたってボランティアスタッフの企画展示コーナーを設け、スタッフがより深いレベルで事業に関わり地域の歴史文化について学習を深めることができた。

- ①地域への関心・愛着をお深め、地域住民の一体感を醸成する。
- ②須坂藩、堀直虎等の地域の歴史について理解を深める。
- ③地域の歴史文化について学び、活動する人材を育成する。

#### 【目標・ねらい】

※自己評価 【 A 】

【理由】  
展示の入館者数増加等から、地域の歴史に関心を持つ方々が増え郷土への誇り・愛着の醸成に貢献できた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

平成29年度に引き続き事業を実施し、市民の堀直虎に対する認知度がさらに向上した。地域への誇り・愛着の醸成に貢献したこの盛り上がりを一過性のものにする事なく、引き続き観光イベント等での創作音楽・紙芝居の上演、講演会の開催等を行う。また、今後もボランティアスタッフの自主的研究や主体的活動について支援を行い、人材の育成を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野地域スポーツ振興事業
事業主体 (連絡先)	長野広域連合 (026-213-5100)
事業区分	③ 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,959,360円 (うち支援金: 2,272,000円)

#### 事業内容

スポーツを通じた長野地域全体のスポーツの振興及びチームの応援等を通じて、地域の一体感の醸成を図るため、長野地域内のプロスポーツ選手等との交流事業を実施した。

また、スタジアムやアリーナの施設内見学を行うなど、地域施設に関する知識や理解を深める場の提供をした。

オリンピックに向けて高まる機運とともに、1人でも多くの地域住民にスポーツに対する関心を持ってもらうことで、地域振興へと発展させる。



【出張スポーツ交流】



【スタジアムで応援】

#### 事業効果

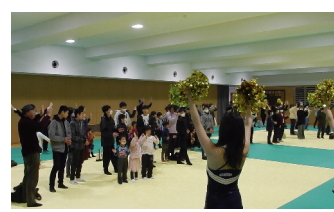
プロスポーツ選手等が長野地域内の学校等のグラウンドや体育館を訪問してスポーツ交流を行う「出張スポーツ交流」を実施し、参加した園児・児童・生徒等がお礼として応援旗を作成し、公式戦での応援やスタジアム等での交流(サッカー2回、バスケットボール2回、バレーボール2回)を実施した。

スタジアム等交流への参加者数は、延べ428名で、プロスポーツ選手との交流や新しい施設の利活用により、スポーツへの関心が高まり、地域活性化の促進につながった。

全体として、子ども達の体力向上・健康増進・情操の育成が図れ、また、長野地域のスポーツチームの認知度や興味度の向上も図れた。



【選手との交流】



【応援練習】

- 【目標・ねらい】
- 長野地域内のスポーツ振興
  - スポーツを通じて地域の一体感の醸成を図る
  - 子ども達の体力向上、健康増進、情操の育成を図る

※自己評価【B】

学校等では選手との交流により、貴重な体験をし、また、スタジアムでは実際に観戦、応援することで地域の一体感の醸成が図られた。地域施設に関する知識や理解も深まり、スポーツへの関心も一層高めた。

#### 今後の取り組み

長野地域スポーツ振興事業の「出張スポーツ交流」については、当広域連合が毎年行っている事業のため、継続して実施する。今年度、支援金の対象となった事業については、次年度以降も発展させた形で継続的に実施していきたい。

また、今後も長野地域の市町村と十分な連携をとりながら事業を実施し、スポーツを通じた地域の一体感の醸成を図りながら、長野地域を盛り上げていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	武田信玄のろし上げ実証事業
事業主体 (連絡先)	長野市大岡地区住民自治協議会 地域づくり委員会 026-266-2151
事業区分	地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	506,060円 (うち支援金: 365,000円)

#### 事業内容

大岡地区の城跡がのろし台として重要視され、要衝の地として位置付けされていた事を、地域の歴史文化を学ぶことから知り、ろし上げ場所を4箇所増やし、実際に行うことにより、地域住民の連携を深め、地域への愛着をさらに強いものにする。またこれらの場所を整備することにより憩いの場としての位置づけを地区内外に広め、地域の発展につながる事を目的とする。



【のろし上げの様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 地域への愛着と連帯感
- ② 地区内外への発信
- ③ 地域振興への活用

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

のろし上げ実証の開催により、地域住民の連帯感の強化と絆が深まった。

さらに、新町地区の協力もあり大岡への興味が掘りおこされたことで、地域振興を盛り上げる機運が高まり、行動につなげるきっかけとすることができた。

※自己評価 **【B】**

【理由】当初予定していた2ヶ所が上げることができなかった事

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・近隣地域を巻き込んで、のろし上げ実証
- ・地区内での山城跡地ほりおこし
- ・山城周辺の整備

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	第14回「まつしろ現代美術フェスティバルー泉水路」	
事業主体 (連絡先)	まつしろ現代美術フェスティバル実行委員会 (〒381-1231 長野県長野市松代町伊勢町5 7 7/026-285-0070)	
事業区分	③ 教育、文化の振興に関する事業 ア 特色ある観光地づくり	
事業タイプ	ソフト	
総事業費	1,280,476円 (うち支援金：	1,000,000円)

### 事業内容

ハ・ジョンナム、浅井真至、蓮沼昌宏、杉原信幸、中村綾花、佐藤啓、黒田将行、森妙子、仁科正史、木村仁、中村明を招聘し、旧前島家住宅、松代藩文武学校、旧松代駅、山寺常山邸、寺町商家、ギャラリー松真館別館・旧牛乳処理場を会場に松代の歴史、文化、空間を生かした「泉水路」をテーマにしたアーティスト・イン・レジデンスによる作品制作と、地域住民との協同イベント、作品展示を行った。寺町商家にてSUEN+柿崎順一、齋藤徹×ザイ・クーニン、原始感覚獅子舞の公演を行った。サンホールマツシロ・大会議室で「松代の泉水・泉水路」シンポジウムを行った。松代AIRにてクロージングの懇親会を行った。

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 松代藩文武学校改修のため、文武学校の入場者数は減ったが、全体の延べ入場者では若干の増加した。
- ② 原始感覚美術祭に参加した観客が松代にも訪れた。
- ③ ハ・ジョンナムの大本営の歴史性とも繋がるパフォーマンスインスタレーション作品。松代の木を使った黒田将行。泉水路と繋がる牛乳処理場を作品化した中村明、松代の文化を表現した作品が生まれた。
- ④ 泉水路シンポジウムには沢山の観客が訪れ、泉水路の意義が語られた。齋藤徹×ザイ・クーニンは、松代の文化の歴史を刻む素晴らしい公演が行われた。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

松代の持っている文化は深く、招聘作家は今回は松代の文化の一端にしか触れられなかったと思われる。長期レジデンス作家と展示作家を分けて選択し、松代の文化の深さをより、掘り起こすレジデンスが必要と感じる。それにより、松代の町民とアーティストが協力して作品制作を行い、松代を表現することでより多くの人が興味を持って訪れてくれるのではないかと考える。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【ハ・ジョンナムの髪を切ってください】

### 【目標・ねらい】

- ① 来場者の増加
- ② 2地域を繋ぐ文化交流
- ③ 松代の文化を生かす作品制作
- ④ 松代の文化を生かすイベント

### ※自己評価【A】

#### 【理由】

文武学校の改修工事のため来場者の増加は少なかったが、松代の文化の歴史を刻むような作品制作とイベントが行われた。

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	第41回全国町並みゼミ長野松代・善光寺大会の開催
事業主体 (連絡先)	第41回全国町並みゼミ長野松代・善光寺大会実行委員会 TEL026-278-1277
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業 ①地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	7,936,577円 (うち支援金: 4,000,000円)

#### 事業内容

地域の取り組みについて発信するとともに、課題に向けて意見交換を行い、住民が歴史まちづくりを考える機会を設ける場とする。

- ①第41回全国ゼミ長野松代・善光寺大会の開催
- ②ロイヤルホテル長野での基調講演開催
- ③第一分科会開催 善光寺大本願での門前のリノベーションに寄る事例発表
- ④第2～5分科会は松代で開催 各分科会の事例や各パネリストの発表等で住民との協働して共有していく
- ⑤プログラム冊子・運営マニュアル・報告書の作成

#### 【全国ゼミ全体会】



#### 事業効果

- ① 基調講演の「日本における町並み保存の歴史と今後の展望ー松代から考える」を参加者に再度認識を新たにさせることができた。
- ② 第一分科会の善光寺リノベーションの実例は若者の起業の応援する取り組みで参加者からは好評で共感が得られた。
- ③ 第2～5分科には地元から多くの参加者がありギャラリートークではパワーポイントを見ながらのトークで、真じかに見聴きして頂き質疑応答でわからない点を確認出来た。
- ④ 松代では各分科会毎に部会の関連先を巡り現状の確認して頂き、各分科会での課題確認と課題の共有が出来た。
- ⑤参加者は地元小・中学生・市内高校・短大・大学生の参加により若年層のよるまちづくり意識の向上に寄与した。
- ⑥松代地区および善光寺周辺地区との相互交流が出来た。
- ⑦長野県内のまちづくり関係のネットワークの機運が出てきたので協力していく。

#### 【目標・ねらい】

- 今までは松代町内の泉水・泉水路が維持されて来ていたが高齢化や世代交代によって歴史的町並みが宅地開発等の動きによって泉水路も次第に減少している。伝統環境保全の観点から住民意識の高揚をはかる必要がある。
- これまでの取り組みを発信すると同時に現在抱えている深刻な課題の解決に向けた情報交換を行う。
- 善光寺門前のリノベーションの実例等パネリストの実例を紹介し課題の共有をする。
- 松代町内の関係団体の参加いただき松代の課題や体験とおもてなしを行いゼミ参加者に再度来町していただく取り組みをする。

#### 今後の取り組み

- \*松代地区の課題に向け、各関係団体や行政との協力をしていきたい。
- \*報告書の冊子を活用した取り組みを考えていきたい

#### 自己評価 (目標達成率) 【 A 】



(別記様式第 1 1 号) (第 3 の 8 関係)

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70～89%「C」50～69%「D」49%以下で示すこと。

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	(一社) ガールスカウト長野県連盟キャンプ 2018 “バリアフリーキャンプ” —障がいを持つ子供たちと共に—
事業主体 (連絡先)	一般社団法人ガールスカウト長野県連盟 (長野県安曇野市豊科 4960 番地 1 長野県安曇野庁舎 1階 TEL0263-71-1765)
事業区分	教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,344,072 円 (うち支援金 : 1,298,000 円)

#### 事業内容

戸隠の豊かな自然の中で、小学4年生以上の子供たちと、障がいを持つ子供たちとガールスカウトが共にキャンプすることで、お互いのコミュニケーション能力を高め、共生する心を育てる。また、戸隠地区の文化と歴史にふれる体験を通して、地域とつながることを目指す。そしてキャンプ技術を深め、共に生活することで“生きる力”を身につける。

○日時 平成30年7月28日(土)～31日(火)

○場所 戸隠ガールスカウトセンター

○参加者

ガールスカウト(小4～高3)82名、成人56名

一般小学生1名、講師16名、

障がいのある小・中学生14名、来賓3名、

オープンディ参加者(一般含む)133名(内一般6名)

○後援 長野県教育委員会、長野市教育委員会



【参加者集合写真】

#### 【目標・ねらい】

- ① 共生する心を育てる
- ② コミュニケーション能力を育てる
- ③ 生きる力を身につける
- ④ 地域とつながり郷土を愛する心を育てる

#### 事業効果

- ① 助けたり助けられたりする中で心の垣根が取り払われていくのがわかった。  
ガールスカウトのキャンプの流れについていける可能性の確認ができたことは驚きだった。
- ② コミュニケーションをとるうちに相手のことを知ることができ、安心してキャンプができた。  
他団体の子供たちが入ったことにより、感謝(ありがとう)の気持ちを言葉で伝えられるようになった。
- ③ 自分たちで料理することで、苦手な食材、少ししか食べられない子も、驚くほど「おいしい」とよく食べていた。  
リゾートキャンプではなく「足りない中でこそ子どもは育つ」ことを確認できた。
- ④ 選択プログラムにより各地を訪問し体験したことで、子どもたちの表情は映画の1シーンのように輝き、郷土の良さを感じられた。

#### ※自己評価【 A 】

##### 【理由】

- 障がいのある子供たちが予定以上に参加してくれた。
- 共生する体験ができコミュニケーションをとる力が少しずつついた。
- 不自由な生活の中で、用意しなくても越えなければならない課題が生まれ、その中でお互い協力し合いながら失敗を気にせず挑戦するようになった。それは「生きる力」と「自己肯定感」を育てるものだった。
- 戸隠の空気、水、緑、古代のロマンを身体いっぱい感じとり、郷土を愛する心が生まれた。

#### 今後の取り組み

○2019年：小学1年～3年キャンプに障がいのある子を招く。

○2020年：小学4年～6年のキャンプに障がいのある子と一般の子供を募集してキャンプする。

自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	バドミントンを通じた地域元気プロジェクト ～子供に夢を！地域に元気を！～
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 AC長野パルセイロ・バドミントンクラブ 090-1637-3457
事業区分	教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,466,966円 (うち支援金：2,999,000円)

### 事業内容

- ①チャレンジマッチ ホームゲーム戦  
(AC長野VS北海道コンサドーレ札幌&JR北海道)
- ②トップアスリートによる子供向け講習会の開催
- ③試合や講習会のYouTube・SNS配信の実現



【活動の様子】

### 【目標・ねらい】

- ①見せるバドミントンを開催
- ②バドミントンを体験してもらう
- ③ボランティアスタッフの発掘
- ④全世界にイベント配信

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①バドミントン関係者でない観戦者が多く試合の観戦とバドミントンの体験を行ってもらった。これを期にバドミントンを定期的に始めるとの声が多く、長野地域のサークルを紹介した。更なるコミュニティーの発展が期待される。
- ②トップアスリートの講習会で多くの参加者が集まり、ボランティアスタッフの発掘とイベント周知ができた。
- ③全世界へライブ配信を行い、このイベントの動画を届けることが出来た。

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

講習会への参加数の目標未達成と、チャレンジマッチ戦での天候不良による来場者減は痛手であった。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

Jリーグ繋がり今回開催したが、より多くのチームとホームゲーム戦を行うことで、観戦者数の増加とバドミントンのプロ化、メジャー化に発展しJリーグのように地域が一体となって盛り上がると感じた。次年度はチーム数を増やし、ボランティアを更に増やすこととする。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	俄物(にわかもの)を通じてながの祇園祭への参加と伝統文化継承を促す事業		
事業主体 (連絡先)	ながの祇園祭屋台運行実行委員会 事務局 026-228-5880		
事業区分	(3)教育、文化の復興 (1)地域協働の推進に関する事業		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	459,378 円 (うち支援金 :		367,000 円)

事業内容

市内の小学校に俄物の授業での知識付けと製作、祇園祭当日の曳きを依頼し、多くの子供達に直接祇園祭の盛上げに係わってもらいます。祇園祭終了後は、子供たちが作成した俄物を学校に展示し、伝統文化への取り組みを継続するほか、翌年は次の学年が製作に取り組んでいくような学校内での伝統を作る。俄物本体は実行委員会を用意し、子供たちに障子部分の絵を描いてもらい、自己表現の場と地域の伝統文化を考えるきっかけとしてもらう。祇園祭での俄物展示と巡行を通じて伝統芸能の継承を進める。



【俄物パレード】

【目標・ねらい】

- ① 子供に伝統文化に触れてもらう
- ② 子供に地域を知ってもらう
- ③ 子供に祭りを知ってもらう
- ④ 地域との共働

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

俄物作製に長野市内の小学校5校とフットサルチームのボアルース長野や少年野球チームが参加。ながの祇園祭前日の宵山には10基を展示し、製作に携わった小学生や学校の先生などが多数見学に来てくれました。当日のパレードには10基巡行しました。俄物の曳き手として、多くの子供たち及び保護者の方が参加しました。俄物を各学校で一年間展示する予定でしたが、学校側のスペースの確保が問題で保管はできなかったものの、製作に参加した子供たちは、ながの祇園祭を肌で触れ、多くの子供たちが祇園祭を知ったと思います。

※自己評価【 B 】

【理由】

ながの祇園祭を市内小学生に知ってもらうことが出来た。町も俄物巡行を盛り上げる為共働してもらえた。文化芸術の伝承、郷土愛醸成など学校教育面での効果も期待できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

本年度俄物製作をしてくれた学校は来年も学校として製作に参加して貰うと共に、他小学校へも参加要請を引き続き実施す。さらに、学校以外の団体へアプローチをし、子供たちへの知名度を上げて興味付けをする。ながの祇園祭の伝統と楽しさを若い人たちに感じてもらう為に、俄物製作と巡行を継続する事で祭りへの参加動機付けをし、ながの祇園祭を長野の一流ブランドにする。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 平成 30 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括表

事業名	20・15・10「縁」コンサート
事業主体 (連絡先)	どんどこ座・芙蓉の会 381-0085 長野市上野 1-3 1-2 永泉 洋
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	459,822 円 (うち支援金: 367,000 円)

## 事業内容

縁で結ばれた 3 団体を中心に、賛助出演 5 団体、特別出演 2 団体を加え、さらに大きな縁を築く。

また、障がい者には文化芸術を楽しんでいただき、今後の幅広い社会参加に繋げる。

- ・日時：平成 30 年 9 月 1 日 (土) 13:00~16:00
- ・場所：長野県障がい者福祉センター「サンアップル」
- ・主催：どんどこ座・芙蓉の会、長沼こまち太鼓、三登山太鼓、



## 事業効果

- ① 客席数を超え、予想以上の入場。パイプ椅子 30 個前列に追加し対応した。  
入場者 371 名 = 来場者 259 名、保護者 19 名、出演者 93 名。
- ② 障がい者を中心にして、一堂に会し、切磋琢磨することができた。
- ③ 賛助出演等ジャンルを超えた交流ができ、障害者に元気と勇気を与えた。
- ④ 本事業により更なる連携や一体感で障がい者の社会参加に繋げていく。

目標・ねらい	自己評価 [ A ]
① 一期一会の仲間が、切磋琢磨する。	[理由]
② 障害者の幅広い社会参加。	① 予想を超える入場者があった。
③ グループを超えた交流の活性化。	② 視覚障がい者 (20 名) に勇気と感動を。
④ 市内の文化芸術活動の推進。	③ 出演者・裏方・観客の一体感で盛り上がり大成功だった。
	④ 和楽会「昇」の大太鼓と演奏に圧倒、特別出演に観客が満足した。
	⑤ 市内の文化芸術活動の推進に役立つ。

## 今後の取組み

本事業を通じて、連携や一体感の醸成が更に図られたので、障がい者の社会参加に役立てるとともに、東日本大震災「3.11 を忘れない」心の復興支援事業を継続しながら、復興の心を伝えていく。また、行政と連携した文化芸術活動の推進にも努めていく。

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	芋井地区発地域間交流事業
事業主体 (連絡先)	芋井の歴史を学ぶ会 (長野市大字桜600-49 長野市立芋井公民館内)
事業区分	教育、文化の振興事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	933,200円 (うち支援金: 746,000円)

#### 事業内容

長野市芋井地区歴史年表(2万年前の上ヶ屋遺跡から平成30年まで)を編纂し、自らの歴史を学ぶと共に広く地域住民に発信し、地域の元気づくりの取り組みに貢献していく。

加えて、他地域との交流を進め、それぞれの地域の元気な地域づくりを促し、その結果として、市街地への人口集積を防ぐことを目指す。

- 広く公開した歴史を学ぶ勉強会の開催 2回
- 地域住民を対象にした歴史講座の開催 8回
- 芋井の名所・名跡巡り(地域間交流) 1回
- 歴史年表を各種公的機関等へ資料提供 126所



【地域間交流の様子】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 長野市芋井地区歴史年表を編纂して、自らの地域の魅力を再発見し、芋井の歴史を学ぶ会の会員に加えて、地域住民へ広く地域の魅力を発信できた。
- ② 広く公開した歴史を学ぶ勉強会へ、芋井地区外からも、多くの参加者があり、加えて、他地域との交流会を開催する中で、芋井地域発の各地域の元気づくりの取り組みを進める一助になった
- ③ 歴史を学ぶ勉強会や、それぞれの地域の名所巡り等の地域間交流を通じて、自らの地域を見直し、住み続けることへの意識改革に貢献した。

#### 【目標・ねらい】

- ① 地域(ふるさと)を学び、地域をより良く
- ② 他地域と交流、互いの魅力発見
- ③ 市街地集積を防ぐ一助に

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

長野市芋井地区歴史年表を活用して、更に学習を広げ、それぞれの地域(ふるさと)の魅力再発見事業に発展できるよう地域間交流を継続していきたい。

その結果として、自らのふるさとの元気づくりと、市街地への人口集積を少しでも変えていくことができるよう取り組んでいきたい。

#### ※自己評価【A】

##### 【理由】

- 学ぶ会の会員以外の地域住民への発信ができた。
- 勉強会へ広い地域から参加した
- 歴史を通じて地域間交流が充実

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	箱膳を活用した食育推進事業
事業主体 (連絡先)	信州ひらがな料理普及隊 長野市小柴見 58-34 長野県農村文化協会内
事業区分	教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,829,520 円 (うち支援金 : 785,000 円)

事業内容

箱膳体験を10団体で80回1840人実施した(交付決定日8月22日以降は57回1383人実施:北信州食文化研究会は管外のため除く)食育基本セット10種類パンフができたことで学校教室での授業や公民館講座などの座学で理解を深めることができた。箱膳体験時に「小学生版・中学生版・高校一般版」3種ができたことで対象に合わせて食育を学習することができた。語り部のお話だけでは理解が難しかったことが今回の資料によって信州人らしい食習慣、食作法も学びやすくなった。

(活動)



【 】

【目標・ねらい】

- ①信州の食文化を発掘し伝承する
- ②食と農の距離を縮める
- ③食にまつわる作法を学ぶ
- ④田んぼ・お米の大事を伝える

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

2月に県庁議会議棟で行われた「信州の食を育む県民会議」で50セット用意し報告させていただいた。報告に対して議長から教育長、観光部長にも関係するので参加呼びかけがあった。長野県総合5ヶ年計画の基本方針である「学び」と「自治」の具体的な実践方法として信州らしいライフスタイルを提案することができた。箱膳体験が学校栄養教諭や公民館講座、県シニア大学、県女子短大、全国棚田サミット、善光寺100人箱膳など多様な場面で活発に行われたことでマスメディアにも多く取り上げられて新たな学習希望者がでてきている。三菱電機本社ユーザー向けホームページに取り上げたいと長野県鬼無里で箱膳体験。

※自己評価【 A 】

【理由】

パンフレット類ができたことで活動に自信を持って取り組んでいる。行政や他県からも評価され食マナーもしっかりした信州っこを育てていきたい

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

来年度から農水省の食育事業の窓口が消費生活課に変わるため「食の安心・安全、食企業支援」から「地域に根ざした食育」が強化されると期待している。信州オリジナルの「箱膳を活用した食育」を全国に伝えていく。6月の全国食育推進大会でPRする。学校と公民館活動に力を入れていく。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

- 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
- 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野県りんご栽培発祥の地（りんご栽培 140 周年）地域活性化事業
事業主体 (連絡先)	真島まちづくり委員会 会長 小山英壽 (事務局 小山 保徳 090-1435-5794)
事業区分	(3)文化の振興、(1)地域協働の推進・教育、(6)産業振興（農業振興）
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,532,397 円 （うち支援金： 1,212,000 円）

#### 事業目的

長野市真島は信州りんご発祥の地(明治12年1879年)であり、また、甘く美味しいりんごと定評の“サンふじ”も真島の地から生まれた。しかし、これらの事は、地元住民はもとよりりんご栽培者も知らずにいる。現在、農業者が著しく減少しているなか、真島でのりんご栽培の歴史を広くPRし、そういった農村の価値を再度、住民各位が見つめなおす機会を提供する。



【夏休み親子スイーツづくり】

#### 事業内容

1. 長野県信州りんご発祥の地真島真島りんご140周年の栽培および貢献の歴史・今後の展望をまとめるリーフレット・冊子・パンフレットおよび写真等を活用した文化発信事業（・小学校等で出前講座・町巡り・収穫イベント等の事業・出前講座等での展示パネルの整備）
2. 真島りんごブランド復活事業(真島りんごのおいしさと栽培140周年の歴史をPRするパンフレットを作成し、贈答販売品に添付。

#### 【目標・ねらい】

- ① 真島フルーツセンターへの来客増加
- ② 観光客数の増加
- ③ 地域住民・児童の農業理解向上
- ④ 真島りんごのブランド化

#### 事業効果

- ①
- ② 各種PR活動により真島フルーツセンターへの来客や真島へのりんご狩り等の3000人程度の客数が10%程度は増加したと思われる。
- ③ 出前講座、児童向けリーフレット、パンフレットにより、地域住民や周辺地域の児童生徒に真島地域が信州りんごの発祥の地および重要な農用地である事を広く周知することができた。
- ④ 作成パンフレットを贈答販売品に添付でき認知度をアップできた。

#### ※自己評価【 A 】

##### 【理由】

真島まちづくり委員会として取り組んだりんご栽培140周年事業が住民各位の総意として展開できる運びとなった

#### 今後の取り組み

今回の事業で地域住民の中で真島が長野県リンゴの発祥地であることを共有することができた。今後は、農村の価値を再度、見つめなおし、新しい街づくりを地域住民で考え発展させるモデルとなるような活動に繋げてゆきたい。



(別記様式第12号) (第3の8関係)

- ※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	中条アートロケーション地域振興プロジェクト
事業主体 (連絡先)	中条芸術文化振興会 (代表 小林久男) (事務局 広瀬 毅 090-2631-8240)
事業区分	(3)教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,799,980 円 (うち支援金: 1,425,000 円)

事業内容

- 制作体験ワークショップ  
(実施イベント)  
「NAPPA アート体験～ふれて、つくって、体感しよう!～」
  - クラフトワークショップ【木工】【金工】
  - 絵画ワークショップ【絵画】
  - フォトワークショップ【写真】
  - こどものためのワークショップ【子供向け】
  - 音楽ライブ【津軽三味線】【ライブペインティング】
- 広報パンフレット「なか～中条・アート・文化・これから～」  
A5版 12 ページ 3,000 部作成・配布



【10/28 木工ワークショップ】

【目標・ねらい】

- 作家と地域住民の交流による地区の「芸術文化」の振興と地域活性
- 「芸術文化」の拠点としての中条地区を広く広報していくこと。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・ワークショップ参加人数 98 人
- ・音楽ライブ参加人数 20 人

ワークショップではアートを身近に感じてもらい、生涯通して楽しめる表現であること、また中条地区の新しい動きを知ってもらい、地区の将来に向けて愛着を深めてもらうことができた。

広報パンフレット (3000 部) 全戸配布と外部発信により中条地区が芸術文化の拠点としてすすんでいくことの認知をすすめることができた。

※自己評価 【 A 】

【理由】

日頃あまりなじみのないアートのワークショップに想定以上の人数の地区の人々に参加していただいた。また、大変喜んでおられた様子を見て、今後につながる、と感じた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も本事業が地区の一部の人だけの活動ではなく、地区全体に共有されるよう務め、「芸術文化」の振興と地域活性に寄与していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	須川展也プロデュース 長野市芸術館プラス・フェスティバル Vol.1
事業主体 (連絡先)	一般財団法人長野市文化芸術振興財団 長野市大字鶴賀緑町 1613 番地
事業区分	(3) 教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,790,625円 (うち支援金: 2,142,000円)

北信エリアの12高校の吹奏楽部から希望者を募り、トップ・プロミュージシャンによる指導を行うとともに、共演という発表機会を通じて、北信エリアの文化芸術の振興に繋げる。また、本公演に先立ち、管楽器の歴史や成り立ちを学べる講座を開設し、演奏力向上に繋げる。

- ・長野市芸術館スーパー・ウインド・オーケストラ  
高校生74名参加、来場者664名
- ・緒方英子のすっきりクラシック/スペシャル 2回開催  
来場者189名
- ・市役所ロビー・コンサート  
高校生6名参加、来場者約250名



【長野市芸術館スーパー・ウインド・オーケストラ】

#### 【目標・ねらい】

- ① 北信エリアの高校生吹奏楽部員の演奏レベル向上
- ② 地域として吹奏楽を応援する機運の熟成

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 4回の練習や本番を通し、技術の向上のみならず、高校の枠組みを超え、一つのステージを作ることの素晴らしさを共有できた。参加した高校生からも「技術が向上した」「他の部員にも教えたい」「他の高校の人と演奏し刺激になった」など感想をいただいた。
- ② ロビー・コンサートでは、近隣住民の方や市役所に来ていた方に多く鑑賞いただいた。無料でトップ・プロミュージシャンの演奏を聴くことができる環境や、地元高校生との共演の場実際に立ち会うことによって、地域に文化芸術が浸透し、応援していく機運が高まっていくことが期待される。

#### ※自己評価【 B 】

##### 【理由】

- ・高校生が成長する良い機会と場を提供でき、次回も参加したいとの声が多かった。
- ・ロビー・コンサートが好評で、広報を効果的に行えた。

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

2020年4月に次回の長野市芸術館プラス・フェスティバル Vol.2 を企画しており、この事業を通して単にステージに上がってもらいだけでなく、「あこがれ」を共有することで、長野市芸術館が吹奏楽の新しい発信地となるよう、高校生などこれからを担う世代の育成を継続していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

- 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
- 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	懐かしくて新しい「紙芝居のさと」づくりⅡ
事業主体 (連絡先)	信州須坂紙芝居のさとプロジェクト 市立須坂図書館 TEL026(245)0784
事業区分	③教育及び文化の振興に関する事業 ⑧その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,139,300 円(うち支援金:911,000 円)



**事業内容**

紙芝居の盛んな須坂市にありながら、須坂市立博物館に収蔵されている昭和の貴重な紙芝居のことは知られていなかった。当市出身の街頭紙芝居最後の絵元・塩崎源一郎が寄贈したそれらの紙芝居を複製し、市民が日常的に「使える文化財」にすることで、郷土の先人・塩崎の偉業を伝え、ふるさとの特色ある芸術活動として定着させていく。

市民が力を合わせて複製するなかで、レプリカ作成のノウハウを継承し、演じ手も育成する。生きがいを求めるシニア世代には、研修と活躍の場を提供し、紙芝居ボランティアのネットワークとして、紙芝居をツールに、地域や世代を越えた交流で心のふれあいを深め、紙芝居の文化薫る郷土を誇りに思う市民を育てていく。



第2回信州須坂紙芝居のさとまつりでは、市民が代わるがわるレプリカを演じた。

**事業効果**

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 昨年度につづき、須坂市立博物館の協力と三邑会の監修のもと、忠実なレプリカ100枚を複製した。これまでに完成させた200枚を、塩崎の弟子と市民が、178名の市民の前で披露した。
- ② 複製された紙芝居をみることで、塩崎源一郎の存在を知った市民が、紙芝居の盛んな郷土との不思議な縁を感じ、紙芝居は、ふるさととは切っても切れないたいせつな文化だと気づいた。
- ③ レプリカ作成を機に長野県内で活動する紙芝居団体・個人や市民が集まり、ネットワークができた。塩崎の弟子の街頭紙芝居師もたびたび出演するなど、「須坂に行く」と紙芝居が見られる」など、須坂が「紙芝居のさと」であることが定着し、集客につながるようになってきた。
- ④ 紙芝居を使って地域で活動したい初心者(特に男性シニア)向けに、「信州須坂とことん紙芝居塾」を開講した。実技講習に加えて、地域デビューまでをとことんサポート。12名の塾生が巣立った。
- ⑤ 小・中学校の「信州型コミュニティスクール」や、高等学校の「信州学」などに紙芝居を取り入れるところが増え、世代を超えた交流が盛んに行われるようになった。

**【目標・ねらい】**

- ① 博物館に眠る紙芝居を複製して使えるようにすること。
- ② 塩崎源一郎さんの偉業を伝え、郷土愛をはぐくむこと。
- ③ 紙芝居団体のネットワークを構築すること。
- ④ 紙芝居文化を醸成し、郷土に誇りを持つ市民を育てる。
- ⑤ 生きがいを求めるシニアに研修と活躍の場を与える。

※自己評価 **【 A 】**

**【理由】**  
市民が力をあわせて完成させたレプリカは、大勢の市民が見守るなか塩崎の弟子と市民によって上演された。あちこちで肩寄せ合って紙芝居を楽しむ風景が見られ、「紙芝居のさと」が誕生した。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

紙芝居文化を醸成し演じ手を育成する事業、特に世代を超えた交流に積極的に取り組んでいく。  
特に、今の時代のコンテンツに長けた大学生の知恵を借り、シニア世代には持ち合わせない新たな発想と技術で、完成させたレプリカを、広く発信し、信州須坂の文化芸術として長く残していきたい。  
これからの世代が、これから生涯にわたって楽しんで取り組める紙芝居の新しいかたちを、ともに考えていきたい。

須坂市社会福祉協議会や長野県長寿社会開発センター等と連携し、シニア世代の活躍や、介護福祉施設への派遣を行えるようシステムを構築していく。

ひきつぎ昭和の貴重な紙芝居の複製と普及に努め、紙芝居をツールに、明るくあたたかいまちをつくってきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	須坂☆キッズシアタープロジェクト
事業主体 (連絡先)	ドリーム・コンシェル 050-3786-2978 理事長 杉本文江
事業区分	教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,813,415円 (うち支援金:1,354,000円)

## 事業内容

【稽古日】30年10月27日～31年1月5日(計12回)

【上演日】31年1月6日 14時～16時

【演目】小学生による **Straight Tiger** 直虎

【場所】メセナ小ホール

私達ドリーム・コンシェルは、ワークショップやセミナー・演劇などの企画・運営をする活動を通して、健全な子どもの育成と長野県の歴史・文化の伝承に貢献したいと考え、須坂藩13代藩主堀直虎公を演題として、小学生だけで演じる舞台を上演した。

出演者、19名観客動員数、230名。多くの方に地域の偉人について見直す機会となった。

この後も直虎公の舞台を子供たちの表現力アップと地域の歴史や文化の発展のために継続事業としていきたい。

## 事業効果

- ① 出演者は地元須坂市だけでなく長野市、上田市、小布施町、中野市の小学生に参加してもらえたことで近隣から多くの方々に観に来ていただくことができた
- ② 須坂市の昔を語る会や地域の歴史や文化の伝承活動家の方々の多大なる協力をいただけ、地域のイベントにしていく土壌ができた。(稽古見学や差し入れ、手作りのプレゼントや当日の公演とボランティアスタッフなど)
- ③ 出演者は小学2年生～6年生で、年も学校も違う子供たちが、自分たちだけでこの舞台を成功させるとの気持ちが稽古を重ねるうちに一つになった。本番は大成功。アンケートは141枚で、ほとんどの大人の方から感想をいただき、全て継続を望む声であった。
- ④ 今回のことで、演劇のプロから指導を受ける演劇体験ワークショップと子どもの可能性のすばらしさを実感した。次年度は稽古期間を4回増やす予定。告知活動をもっと早くから行うこととネットを活用する。

## 【発表会の様子】



## 【目標・ねらい】

- ① 子どもたちの知恵と想像力と身体性を養うと共に、地元を愛する心とコミュニケーション能力向上を目指す。
- ② 地元の活動家と共に発表会を実施することによって、世代を超えた人間関係作りと、自己評価の向上の糸口とする。
- ③ 発表会を通じて親や多くの一般の方々に観劇いただくことで、地元愛を養い伝承活動へとつなげていく。

※自己評価【 B 】

## 【理由】

- ・①～③すべて良い結果ではあったが、予定数の子供たちに参加してもらえなかったことと稽古期間が少なかったこと。



平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	さかき里山トレッキングマップ作成事業
事業主体 (連絡先)	さかき里山トレッキングクラブ 会長 柳澤 直幸 TEL 090 (7265) 8516
事業区分	主となる区分 教育、文化の振興に関する事業 関連する区分 地域協働の推進に関する事業 環境保全、景観形成事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,195,600円 (うち支援金: 956,000円)

事業内容

坂城の里山のトレッキングコース6コースについて、史跡・植物などの見所や安全な登山をする上での注意箇所を分かりやすくイラストにしたトレッキングマップを1,000部作成し、地域住民や観光客向けの登山ガイドとして、また、小・中学生の遠足登山の教材として、関係施設・学校へ配布した。

マップの作成に当たっては、県内各所でイラストマップを作成されている中島豊氏に依頼し、地域の歴史や文化に関する説明も取り入れながら親しみを持ってもらえるものとなるよう心掛けた。

マップ完成を記念し、中島氏を交えたマップを活用したトレッキング講座と講演会を開催した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

坂城の四方を囲む山々は標高1,000m級ながら、自然豊かで、山頂からは信州の山々を一望できる格好の立地にあり、これから山登りを始めようとするビギナーや子どもたちに山に親しんでもらうのに良い環境にある。本事業で作成したトレッキングマップは、講座参加者からも好評を得ており、今後、更なる活用を通じてビギナーや子どもたちにも里山の魅力をイラストにより分かりやすくアピールし、里山に親しみを感じ、地域の里山への関心を広めることが期待できる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

当クラブでは、毎年度町教育委員会主催の生涯学習トレッキング講座の講師を務めており、来年度以降の講座においては、本事業で作成したトレッキングマップを活用した講座を計画している。また、小学校の遠足登山にも毎年度ガイドとして随行しており、本事業で学校に配布したマップを活用することで、子どもたちのふるさとの里山への関心を深めたいと考えている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【上：作成風景 下：トレッキング講座】

【目標・ねらい】

トレッキングコースの親しみやすいイラストマップを作成し、講座等への活用を通じて、ふるさとの里山への関心を広める。

※自己評価【 A 】

【理由】

中島氏による詳細ながらも親しみやすいマップが完成し、講座参加者からも好評を得た。今後、生涯学習講座や小学校の遠足登山へ活用することで、里山への関心を一層深めることが期待できる。



### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	エバーグリーンマーケット：「暮らしの教室」の展開と子供の居場所づくり
事業主体 (連絡先)	エバグリーンマーケット実行委員会 代表 竹内淳子
事業区分	教育と文化の創造
事業タイプ	
総事業費	4,952,240 円 (うち支援金：2,550,000 円)

#### 事業内容

- ・暮らしの教室を開催  
6月より2月まで 12回開催 参加者延べ280人  
10月20日 太鼓ワークショップ開催
- ・信州子どもカフェ「おぶせっこ食堂」を運営  
毎月第4水曜日 放課後から19:00まで  
宿題、予習復習など学習支援をし、一緒に食事を作り地域の大人と交流をする子どもの居場所を運営。



#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載してください。

- ・暮らしの教室  
太鼓ワークショップのついでにはエバーグリーンマーケット当日に参加し祭りをつくることからの体験になり、子どもにとってもいい体験になった。料理実習については、体によい食材の選び方、栄養価を損ねない調理方法を学び、健康的な食生活を学ぶ有効な機会になった。
- ・信州子どもカフェ「おぶせっこ食堂」を運営  
食事を一緒につくる、食べる体験を通して食に興味がない子ども、食事提供に時間の余裕がない大の解決する場になりつつある。宿題、予習復習など学習支援を行うボランティアの参加もあり、こどもに関わりたい大人の活動の場にもなっている。この活動を見て、小布施町内の他の地域でも子どもカフェを作ろうという

#### 【目標・ねらい】

- ① 食育「暮らしの教室」開催
- ② 祭り作り「太鼓ワークショップ」開催
- ③ 信州子どもカフェ「おぶせっこ食堂」開催

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

暮らしの教室は希望もあり継続しておこなう。  
「おぶせっこ食堂」は継続して行い、地域に広げていく。

#### ※自己評価【A】

##### 【理由】

多くの人が暮らしの教室に参加し健康的な食生活の基本を学んだ。  
「おぶせっこ食堂」は地域の中に子どもの居場所を作る活動として小布施町のなかに広がりを見せる活動となった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号)(第3の8関係)

(長野地域)

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小布施短編映画祭を通じた映像のまちプロジェクト
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 小布施まちイノベーション HUB (長野県上高井郡小布施町大字小布施 1491-2)
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,861,749円(うち支援金1,215,000円)

#### 事業内容

2019年3月9-10日の2日間にかけて、小布施町北斎ホールにて小布施短編映画祭を開催した。全世界から合計3084作品の公募作品をいただき、メインスポンサーである株式会社コシナさま、小布施出身の映像クリエイター関和亮監督、小布施在住の一般市民を中心とした審査委員会、実行委員会で作品の審査を行い、最終的に受賞・ノミネートに選ばれた9作品を当日上映した。また、特別企画として、とくにドラマのストーリーを使って、社会課題を如実に切り取っていく外山文治監督を特別ゲストに迎え、3本の特集上映を行った。映画祭開催に向けた広報活動の一環として、2018年夏に、プレイベントを2回開催した。

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・2018年8、9月に行ったプレイベントと映画祭当日合わせて延べ400名にご来場いただき、映像文化に対する地域の関心を高めることができた。
- ・特に各イベントごと、トークセッションや交流会を充実させたことにより、ただ映画を鑑賞するだけのイベントにとどまらず、映画の新たな楽しみ方を学ぶことや、映像作家たちとの交流を生み出すことができた。
- ・ご参加いただいた、映像作家や観客から、「とても面白かった。」「第1回にしてここまでやれる映画祭は今後に期待したい。」「今後も協力したい。」などの声をいただき、本事業を実施する意義を確認できた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・今回ご参加いただいた映像作家たちが小布施で映像制作をするような流れを作っていきたい。
- ・地域、観客、制作者の三者から評価されるような、新しい映画祭を追求していきたい。
- ・第1回の開催にもなって関係性を構築した県内外の他の映画祭との連携を図りたい。
- ・町内を中心とした映像制作ワークショップを開催し、映像文化への関心をさらに高めたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



#### 【目標・ねらい】

- ①映像作家と地域や住民が互いに応援する関係づくりをすること。
- ②映画産業の文化を町内に広げていくこと。
- ③映像を中心とした、新たな学びの可能性を模索すること。

#### ※自己評価【C】

##### 【理由】

- ・映像作家とまちとの関係性づくりの一端を担うことができた。
- ・映像文化に対する地域の関心を高めることができた。
- ・来場人数が見込みを下回ったこと。
- ・第1回で生まれたつながりをどうい次につなげていくかが重要。

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小布施オープンエアシアター		
事業主体 (連絡先)	小布施町文化事業活性化実行委員会 090-8853-6545 事務局 永井		
事業区分	ふるさとを大切にすることを育む取組の促進		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	6,312,594 円	(うち支援金)	3,820,000 円

#### 事業内容

【上演日】30年8月25, 26日 18時～21時  
 【演目】小布施野外シアター2018  
 福島正則 背水の陣のごとく  
 【場所】小布施町総合公園にある野外ステージ  
 私達小布施町文化事業活性化実行委員会は、北信地方の方々に芸術に触れ楽しむ風土を創りたいと考え、本年度は小布施町岩松院に眠る「福島正則」公を演題として、住民参加型の舞台を上演した。  
 出演者は53名(小学生・中学生13名を含む)  
 観客動員数は1120名。多くの方に地域の偉人について見直す機会となった。  
 この後は野外演劇を地域芸術文化振興の柱として、全国に向かって小布施町の魅力として広めていくために継続事業としていきたい。



【野外シアター】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 初日は雷雨もあったが、530人の観客が見えた。  
2日目は天候にも恵まれ、600人近くの観客の大声援で幕を閉じた。最後のシーンでは、涙を流す観客が多く、出演者・運営者の達成感は勿論のこと、観客をも巻き込んだ一体感は想像以上であった。
- ② 正則公は、広島城50万石の城主から高山5万石に左遷されても住民への想いから治水事業を遂行。400年の時を経て改めてその偉業に感服した。
- ③ 出演者は7歳から60歳近くの人までまちまち。年は違えども、一つのものを作り上げる志は一緒。同じダンスを、一生懸命汗を流して踊る姿は、微笑ましい限りで、野外劇の素晴らしさの一つだ。
- ④ 国内でも、野外公演をする劇団は希少価値。生演奏・生コーラス・生ダンスは鳥肌ものだ。これを小布施町でできることにプライドを持ち、継続することで、全国に存在感を示したい。

#### 【目標・ねらい】

- ① 出演者・観客・運営者の全員で一体感を味わえる
- ② 地元の歴史を知り地元愛を育む
- ③ 世代を超えた交流の場
- ④ 国内で希少な野外公演を実施することへの誇り

※自己評価 【 B 】

#### 【理由】

・劇を通して地元の武将の生涯を知り、満足した顧客が多かった。2日続けての観劇者もおおり、裾野は間違いなく広がった。来年度への手ごたえを感じ、是非継続して更に良い劇を提供したい。

#### 今後の取組み

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	全国絵本ミュージアム会議
事業主体 (連絡先)	全国絵本ミュージアム会議実行委員会 上水内郡信濃町野尻3807-30 黒姫童話館内
事業区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業 (1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	810,925 円 (うち支援金: 644,000 円)

事業内容

全国的に子どもの「読書離れ」が指摘されている。「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」ことが切実に求められているなかで、読書活動に関わる者等を対象に全国絵本ミュージアム会議を実施。

- ・全国絵本ミュージアム会議を開催

10月27日 黒姫童話館 童話の森ホール 73名参加



【会議の様子】

事業効果

- ①プロから読み方や発声の仕組みを学び、表現方法(実演)と作り手からの絵本への想いや本質を知ってもらうことで、読み聞かせの技術向上を図るとともに、全国の絵本ミュージアムにおける活動を知ってもらうことで、活動の場の紹介ができた。
- ②町内で独自に読み聞かせ活動をしている小グループがあることがわかった。
- ③参加者からは、他の地域での活動もわかり参考になったとの感想ももらっている。

【目標・ねらい】

- ①読書活動に関わる者の研修
- ②読み聞かせボランティアの獲得
- ③絵本文化の普及

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・絵本ミュージアムの活動 PR ができた。
- ・独自活動をしているグループを見つけたことができた。

今後の取り組み

黒姫童話館の読み聞かせイベント(おはなしの日)を通じて、絵本の楽しさや読書の楽しさをより多くの人に広めていきたい。また黒姫童話館独自で読み聞かせの勉強会なども企画して新規の読み聞かせボランティア養成も考えていきたい。

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	赤塩焼復活プロジェクトII
事業主体 (連絡先)	赤東区 上水内郡飯綱町扇平団地195-22
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業 (1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,654,100 円 (うち支援金: 1,280,000 円)

#### 事業内容

赤東地区には、伝統工芸品「赤塩焼」が作られていたが、現在ではその技術を受け継ぐ者がなく途絶えてしまった。その貴重な文化を、町の宝として再び地元で造る「赤塩焼」を復活させ、地元への誇りと愛着がもてるまちづくりの推進を実施。

- ・赤塩焼体験教室：7月～10月  
月一開催 延べ76名
- ・啓発DVD作成：H31/3月
- ・企画展の開催(共催)：10月～12月  
いづな歴史ふれあい館 約1,050名来場



【赤塩焼体験教室】

#### 【目標・ねらい】

- ① 赤塩焼を後世に伝えていける人材育成
- ② 赤塩焼の認知度向上
- ③ 地元への愛着の醸成

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 体験教室に参加された方より、積極的な啓発委員会への協力があり、赤塩焼を通じた繋がりに期待が持てる。また、リピーターも多く、陶芸愛好家の人口が増えつつある。
- ② 赤塩焼の歴史や特徴が一目でわかるDVDによって赤塩焼に関わる情報提供がより多く広がった。
- ③ 企画展の開催をきっかけに、これまで知られていなかった資料等が確認でき、さらに貴重な文化遺産であることを共有できた。赤塩焼を通して地元地域を再認識されるきっかけになった感は強い。

※自己評価 【 C 】

【理由】  
・DVDや企画展等により多くの方たちの「赤塩焼」に対する認知度は広がった。ただ、関心度はまだまだというところを感じ、アピールの形への課題が残った。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後とも啓発委員会として、復活に向けた取り組みがスムーズに進むよう、地域・町と協力して調査、育成、啓発に尽力していく。また、赤塩焼の用途の拡大を図り、洗練した形を研究し、ブランド化を目指していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある